



# 本学のCOC事業について

(Center of Community)

2016年3月29日  
COC評価委員会



共愛学園前橋国際大学

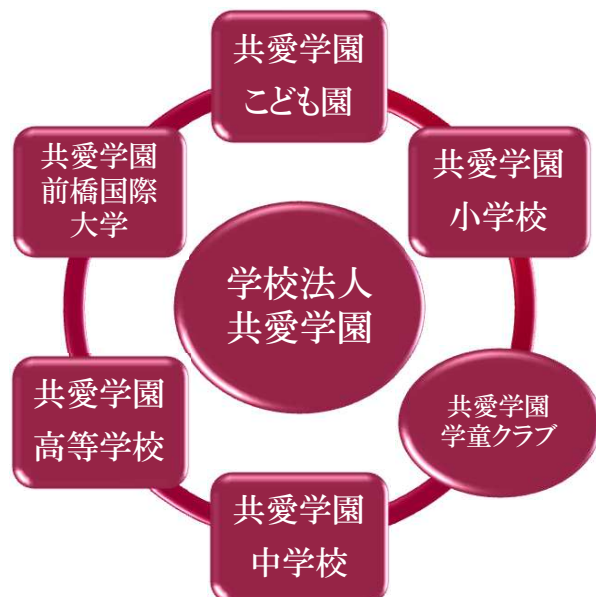


## 「共愛＝共生」の理念～128周年を迎えた学園

### 共愛学園の沿革

- 1888年(明治21年)
  - 前橋英和女学校開校
- 1889年
  - 上毛共愛女学校と改称
- 1939年
  - 共愛幼児園開設
- 1947年
  - 中学・高等学校の併設
- 1988年
  - 共愛学園女子短期大学開学
- 1999年
  - 共愛学園前橋国際大学開学
- 2009年
  - 共愛学園木瀬保育園開設(前橋市より移管)
- 2011年
  - 共愛学園学童クラブ開設
- 2016年4月
  - 共愛学園小学校開設
  - 共愛学園こども園開設

### 共愛学園に連なる学校



共愛学園前橋国際大学

## 共愛学園前橋国際大学の概要

名称 英語名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共愛学園前橋国際大学</li> <li>・ KYOAI GAKUEN UNIVERSITY</li> </ul>
学部 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際社会学部</li> <li>英語コース、 国際コース、 情報・経営コース</li> <li>心理・人間文化コース、 児童教育コース</li> </ul>
定員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学定員225名 3年次編入学定員5名</li> <li>・ 収容定員910名</li> </ul>
理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共愛=共生の精神</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成</li> </ul>
モットー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生中心主義</li> <li>・ 地域との共生</li> <li>・ ちょっと大変だけど実力がつく大学です</li> </ul>

## 本学の特長～新設・小規模・地方をメリットに～

### 先進的な教職一体ガバナンス

#### スタッフ会議

- ・ 理事長、学長、全教職員が参加
- ・ 大学の方向性を左右する最重要課題を審議

#### 各種大学運営センター

- ・ 教員も職員も全員がスタッフとして所属し、主体的に大学を運営
- ・ 属性に関わらず長を互選

学部長  
教授会

学長  
スタッフ会議  
センター

事務局長  
各課

迅速な  
意思決定

学長の強力なリーダーシップ

理事会の強力なバックアップ

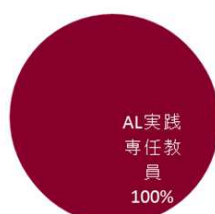
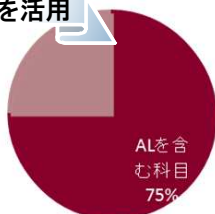
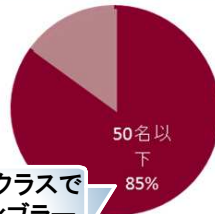
### コンパクトユニバーシティ 教育質転換

クラス規模  
10名台クラス  
が30%

少人数クラスで  
アクティブラー  
ニングを活用

教育質転換  
75%がアク  
ティブラー  
ニング

教育質転換  
100%の専任  
教員がアク  
ティブラー  
ニング実践



### 地学一体による 地域人材育成

地域貢献

地域共生・連携

地学一体

- ・ 学生の85%が群馬県出身
- ・ 卒業生の70%が県内就職
- ・ 様々な主体(行政・学校・企業・NPO)との協働学修

グローバル  
人材育成

地域連携によるグローバル  
リーダー育成(GGJ)  
地学一体化モデルによる地  
域人材の育成(COC)



# 外部評価と採択事業

## 大学基準協会による認証評価（06・10年）

・ 認証＝群馬県内初 基準協会による認証＝北関東初

2016年度  
申請中

## 2012年度「グローバル人材育成推進事業(GGJ)」採択

・ 次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダーの育成(2012～2016年度)

## 2014年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」採択

・ 地学一体化加速プロジェクト：持続的「地(知)の拠点」創成へ(2014～2018年度)

GGJ, COC,  
AP, COC+の  
4事業に同時期  
に採択は全国で  
2大学のみ

## 2014年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択

・ テーマⅠ・Ⅱ複合型：学修質保証システムの構築(2014～2018年度)

## 2015年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」採択

・ 持続的<sup>①</sup>地方創生共同体形成プログラム：若者定着<sup>②</sup>県域総ぐるみ計画(2015～2019年度)

## その他の最近の採択事業等

- ・ 2012年度私立大学教育研究活性化設備整備事業：区分B＝全国8私立大学のみ
- ・ 2013年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択＝全国22私立大学のみ
- ・ 2014年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択(教育の質的転換、地域発展、グローバル化)
- ・ 2015年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択(教育の質的転換、地域発展、グローバル化)



# 文科省「地(知)の拠点整備事業(COC)」

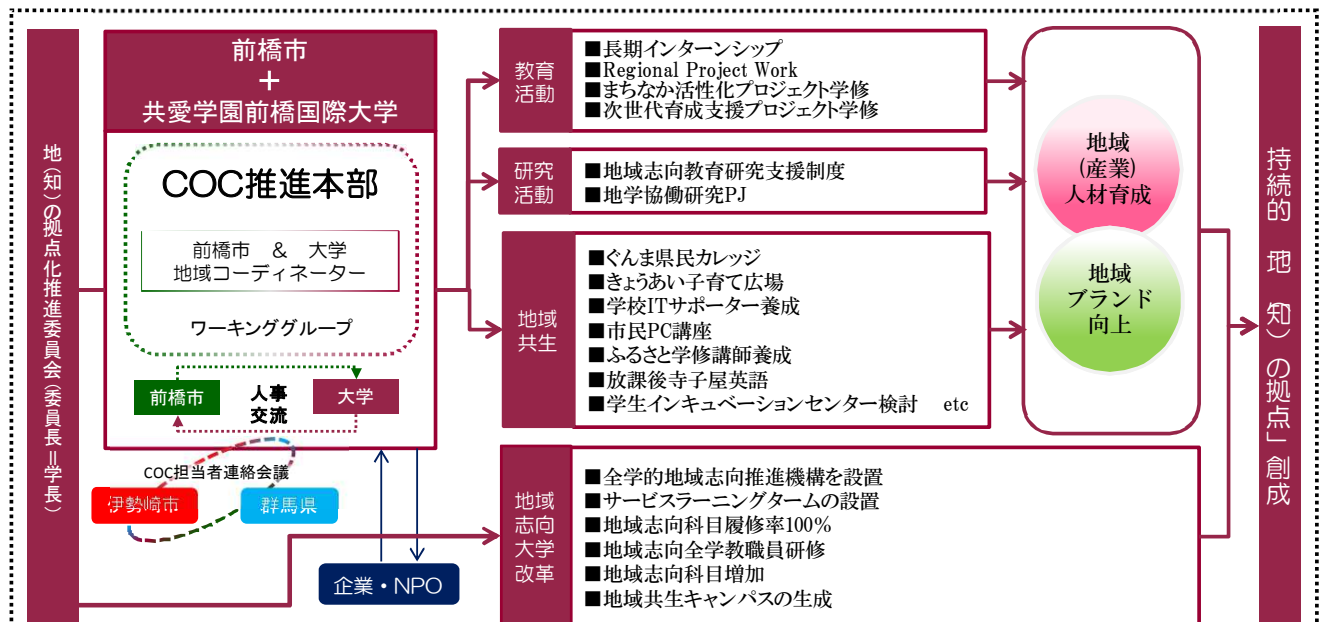


2013年度 342大学申請→52件採択

2014年度 246大学申請→25件採択

群馬県では2013年度に高崎商科大学、2014年度に本学が採択されています。

## 地学一体化加速プロジェクト：持続的「地(知)の拠点」創成へ



## 地学一体で取り組む地域人材育成



## 大学COC事業によるカリキュラム改革

- 文部科学省の大学COC事業では、全学生が在学中に1科目は地域志向科目を履修する教育カリキュラムの改革を行うことが求められます。
- 本学ではこれまでの地域共生・連携の実績をベースにして、前橋市、伊勢崎市、群馬県の行政機関および教育委員会、地元産業界の企業、NPO教育支援協会北関東等のNPO法人と協働連携をして、COC科目のカリキュラムを実施しています。
- 2015年度から本学の「目的」を理解する重要な科目群である、共愛コア科目のC群「地域理解」に地域志向科目群を設置して、新入生から選択必修（2単位以上）としました。（2年生以上は任意の選択科目）

### <COC科目>

- ① 群馬を知るための講義科目（半期2単位）  
 「群馬の人と思想」「群馬の産業と社会Ⅰ」「群馬の産業と社会Ⅱ」  
 「群馬の言葉とこども」「地域とこども」「群馬を知る(群馬県企画部の寄付講座)」  
 「地域福祉論」「地域史研究」「地域社会学」
- ② 行政機関や企業と連携した「ボランティア実習」（通年2単位認定）  
 卒業までに30日以上、学外でのボランティア活動に参加して、毎回レポートを提出する。
- ③ PBL(Project Based Learning)を中心にした社会連携教育（集中2単位認定）  
 「地域実践演習Ⅰ～Ⅴ」
- ④ サービスラーニングタームを利用した半期の地域留学（集中12単位認定）  
 「長期インターンシップ」、「Regional Project WorkⅠ」

クローズアップ



# 地域実践演習 I ~ V

2015年度は合計44名が履修 ※ボランティアを含む全参加者は67名

科目名	プロジェクト名 履修者数	協働機関	概要
地域実践演習 I	環境ネットワーク キャンパス(E-キャン) 5名	サンデン環境みらい財団	共愛学園前橋国際大学・群馬大学・高崎経済大学・早稲田大学の学生13名とサンデン若手社員8名がプロジェクトチームを編成して、①CO2排出量削減プロジェクト、②森の学校E3プロジェクト、③地域活性プロジェクトに取り組む。2010年3月10日に発足し7年目を迎え、2011年から毎年エコプロダクツに出展。
地域実践演習 II	Mキッズサミット 15名	前橋市生涯学習課 前橋市中央公民館 NPO教育支援協会北関東	前橋市生涯学習課、中央公民館、NPO教育支援協会北関東と学生18名(ボランティアを含む)がプロジェクトチームを編成して、前橋市内の小中学生44名を対象に『Mキッズサミット～自分たちのお店をつくらう～』を実施した。前期中は学生スタッフの企画立案会議を毎週行い、後期に小学生とのワークショップを5回実施した。最終日は前橋市教育長、商店街振興組合理事長、学長などの前で小学生が活動発表を行った。
地域実践演習 III	やる気の木プロジェクト 10名	前橋市産業経済部にぎわい 商業課まちなか再生室	前橋市が主催する「やる気の木PJ」に市内の大学や専門学校14校の学生40～50名と市役所若手職員10名程度が参加。前橋の中心市街地活性化を目的として、中心商店街をフィールドに、学生によるイベントを企画実施した。今年度は、月2回の運営委員会を開催し、第4回前橋合同学園祭、けやき並木フェスタ、前橋ハロウィン2015の企画と運営を行い、延べ2万人以上の市民が来場した。
地域実践演習 IV	前橋学 1名	前橋市各地区の公民館	今年度は前橋市東公民館と連携して、「地域連携講座前橋学―歴史から学ぶ前橋―」として全4回の連続講座「東周辺の歴史」を開催した。この講座に出席するとともに、前橋文学館主催の「第43回朔太郎 いまこそ、朔太郎」に運営スタッフとして参加。また前橋まつり、初市など地域の伝統行事を調査して参加している。
地域実践演習 V	困難を抱える生徒の 学習機会創生 プロジェクト(M-Change) 13名	前橋市社会福祉課 NPO教育支援協会北関東	前橋市内の公民館6拠点でNPO教育支援協会北関東が実施する、まえばし学習支援事業M-Change教室(前橋市社会福祉課委託事業)に参加した。学習の機会に恵まれない中学生に対して、英語と数学を中心に「寄り添いながら」学習支援をする指導者ボランティア活動で、今年度は学生30名(ボランティア参加を含む)が参加した。

共愛学園前橋国際大学



## 環境ネットワークキャンパス 学生とサンデン社員によるプロジェクト

### 5/31~6/1 震災復興支援

東松島で行われた「復興の森」作り、海岸清掃のボランティア活動に参加  
同時にヒアリングを行い、プロジェクト活動へ取り入れることができました  
1日目:「復興の森」作りのお手伝い



2日目:乙女が浜の清掃



## やる気の木プロジェクト 前橋市内の大学生、専門学校生約50人による合同学園祭



## Mキッズサミット 小学生40人との「まち歩き」お仕事発見ワークショップ



## M-Change教室 中学生に寄り添いながら学習指導



共愛学園前橋国際大学



# サービス・ラーニングターム(地域留学)

2015年度は合計22名が履修

科目名	連携先、プロジェクト名、履修者数	概要
長期インターンシップ	① 前橋市役所(政策推進課): 1名	<p>将来の就職活動にそなえて、企業、市役所、教育委員会などで実際に仕事をしながら、社会に出るためのビジネスマナー(職場での行動のしかた)、ビジネススキル(仕事に役立つ能力)、ビジネスマインド(仕事をする心構え)を学ぶ。さらに研修先から提示されるテーマに取り組むことにより、単なる就業体験を超えた地域志向のマインドを身につける。</p> <p>①「前橋市役所」地域づくりと自治体行政を学ぶプロジェクト: 主に前橋市政策部政策推進課のメンターのもとで行政職員の実務経験をしながら、地域ブランドの向上、地域の元気創造について学びます。</p> <p>②「前橋市教育委員会」地域の教育行政を学ぶプロジェクト: 主に前橋市教育委員会事務局のメンターのもとで行政職員の実務経験をしながら、学校や地域の特徴を生かした教育活動、地域の生涯学習について学びます。</p> <p>③「サンデン環境みらい財団」E-キャン・プロジェクト: 伊勢崎市にあるサンデン環境みらい財団(伊勢崎市寿町20 サンデン本社内)でサンデン社員と共に企業のCSR活動(社会貢献)を学びます。また環境ネットワークキャンパスのプロジェクト運営をサポートして、エコプロダクツに出展します。</p> <p>④「エアムーブ住宅(司建設株式会社)」家創り企業の経営を学ぶプロジェクト: エアムーブ住宅前橋営業所(前橋市大渡町1-12-6)で、住まい創りの喜び、家造りの面白さ、地域への貢献を学びます。</p> <p>2015年度のスケジュールは次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習: 9月24日~10月1日の期間中に、学内で事前セミナーと研修先についての調査を行った。</li> <li>実務研修: 10月5日~1月26日の期間中に、研修先に通い職場のメンター(指導・相談役)に付いて仕事のやり方を学んだ。また研修先でのテーマに取り組んだ。</li> <li>事後学習: 1月27日~2月2日の期間中に、学内で事後セミナーと発表資料作成を行った。</li> <li>成果報告会: 2月18日に関係者へ成果報告の発表を行った。</li> </ul>
	② 前橋市教育委員会(児童文化センター): 1名	
	③ サンデン環境みらい財団: 1名	
	④ エアムーブ住宅(司建設株式会社): 2名	
Regional Project Work I	① 人をつなげるNPOづくりプロジェクト: 6名	<p>①「NPOいせさきNPO協議会 社会貢献ネット」のメンバーとして、NPO法人の設立(2015年2月)から経営までを学び、実際に地域企業と連携した社会活動を行った。企業と連携した小学生ワークショップの開催、クラウドファンディングおよびボランティアポイント制の調査を行った。</p> <p>② 学生がプロジェクトを立ち上げ、群馬の地域課題(農業等)をテーマに活動した。群馬県農政委託事業「やま・さと応援隊活動」に参加し、みなかみ町藤原地区平出集落でフィールドワークを実施した。</p> <p>③ 学生がプロジェクトを立ち上げ、学童保育の事業内容、社会的ニーズを調査して、学童クラブの設立を志向して活動した。</p>
	② 共愛COCO: 9名	
	③ 学童プロジェクト: 2名	

共愛学園前橋国際大学



## RPW(人をつなげるNPOづくりプロジェクト)メンバーによる「廃品がヘンシンする工場を見学して、廃品と遊ぼう！」(群馬県委託「地域環境学習推進事業」)

夏休みの自由研究に役立つよ！  
けんがく けんがく  
ごうじょう けんがく  
リサイクル工場を見学して、  
廃品をヘンシンさせよう！  
10人  
工場見学しよう  
体験しよう  
無料  
2015  
8/8 (土)  
9:00-13:00  
協賛 株式会社 ナカダイ



## RPW(共愛COCO)メンバーによる「やまさと応援隊活動」(群馬県農政部農村整備課委託事業)



2015年(平成27年)8月22日(土曜日)

### 若い目で地域の魅力

みなかみ 前橋国際大生が調査

大学生の視点を生かして、外国人の活用方法を検討する。前橋国際大は21日、みなかみ町で現地調査を開始した。23日まで町藤原地区に滞在して住民と交流しながら、地域の魅力や課題を探る。地域課題の解決について学ぶ同大の214名が参加した。

岸町長(左)と懇談する奥山教授(左から2人目)や学生

話を聞いた。外国人から入る高(宝川温泉)同所を調査する。23日は地域住民と共に、藤原湖周辺を会場に開催されるマラソン大会の給水作業に取り組み。

9月以降も定期的に町を訪れ、住民へのインタビューや課題研究を行う。奥山教授は祭りや行事の手伝いを通して住民と学生が打ち

上毛新聞  
2015年8月22日  
(西北毛版)

解けたい話から進めていきたい話した。

## グローバル人材育成の人材像

「グローバル化する地域社会の諸課題に対応できる人材の養成」が求められている。

- ① 地域を知り、社会への参加意識を持った学生を育てる。
  - 地域を理解する地域志向教育科目（共愛コアC群）の学修
- ② 表面的な社会人基礎力（対人スキル、要領の良さ）ではなく、異文化理解に必要な教養、オープンマインド、対応力、実践力に気付かせる。
  - 地域実践演習プロジェクトや地域共生活動プログラムへの参加
- ③ これからのグローバル社会で生き抜く力（足許を見据え、現実の問題に立ち向かう能力）を持つ学生を育てる。
  - 企業や地域に学ぶ長期インターンシップやRPWの体験

評価委員の皆様には、学生からの事例報告を聴いて、「グローバル人材」としての成長を評価していただきたいと考えています。

## 地学一体化モデルの創成へ COCは**大学生**が主役！





# 主な具体的取組例



## 教育活動

- サービスラーニングタームの設置
  - 長期インターンシップ創設
  - RPW(Regional Project Work)創設
- 共愛コア科目「地域理解科目群」の履修必修化
- 学校フィールド学修 (既存事業・前橋市協働)
- 日本語教室サポーター派遣 (既存事業・伊勢崎市連携)
- 外国語・ITのサポーター派遣プログラム (前橋市・伊勢崎市連携)
- 前橋学講座の単位化 (前橋公民館協働)
- Mキッズサミットの単位化 (前橋市協働・NPO教育支援協会連携)
- やる気の木プロジェクトの単位化 (前橋市協働)
- 困難を抱える生徒の学修機会創生プロジェクト (前橋市協働・NPO教育支援協会連携)
- 企業人とのProject Based Learning (前橋商工会議所連携)
- 環境ネットワークキャンパスの単位化 (サンデン環境みらい財団・早稲田大・群馬大・高経大連携)

## 研究活動

- 地域志向教育研究支援制度創設
- 歴史遺産活用による前橋市のブランド創出に係る施策の検討 (既存事業・前橋市協働)
- ICT 活用による地域力向上研究 (既存事業・前橋市協働)
- 近代産業文化研究並びにふるさと学修プログラム開発 (伊勢崎市連携)
- 地域ブランド発信のための英語・日本語教育研究 (伊勢崎市連携)
- 高大接続キャリア形成プログラム実証研究 (群馬県連携)
- 地域産業人材に求められる素養の検討とその涵養のための学修プログラム開発 (前橋市商工会議所連携)

## 地域共生(社会貢献)活動

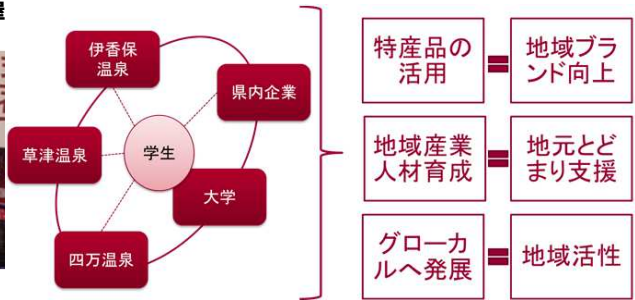
- 市民のためのPC講座 (既存事業・前橋市協働)
- きょうあい子育てひろば (既存事業・前橋市協働)
- 群馬県民カレッジ連携講座 (既存事業・群馬県連携)
- 学校ITサポーター養成事業 (企業・前橋市連携)
- ふるさと学修講師養成事業 (伊勢崎市連携)
- 群馬のいいとこ伝えたい・文化と産業の国際発信事業 (群馬県連携)
- 放課後寺子屋英語 (NPO教育支援協会連携)
- まちなかキャンパス (既存事業・前橋商工会議所連携)
- まえばし経営者塾 (前橋商工会議所連携)
- 前橋合同文化祭 (既存事業・前橋JC連携)
- ラジオ放送 (既存事業・前工大・まえばしFM連携)
- 学生インキュベーションセンター検討 (群馬県・前橋商工会議所連携)



# 学生がつなぐ地域

上州三名湯初のコラボ

大学は美味しいフェア@新宿高島屋



川場村←学生→清月堂



前橋・伊勢崎の小中学校にはすべて寄贈、学生が訪問して学校単位の大会も開催

国語教育ゼミ × 美術教育ゼミ × 産学連携ゼミ  
+  
企業・行政

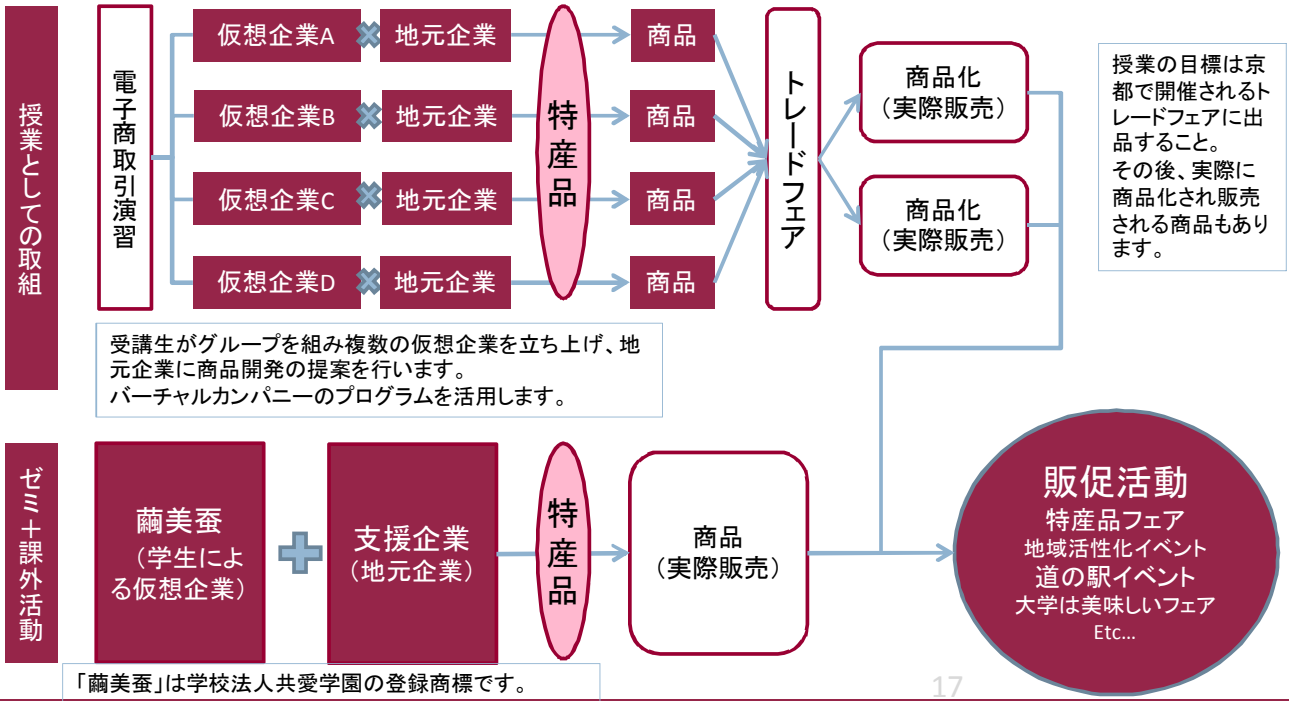




# 学生による商品開発のプロセス

■「電子商取引演習」(1・2年生対象)という授業の中で特産品を活用した商品開発を行うプロセスと、仮想企業「繭美蚕(まゆみさん)」という学生団体(中心となるゼミ+有志)が行うプロセスとがあります。

■「繭美蚕」では、授業で商品開発を経験し、3・4年生になっても活動を継続したい学生が所属し、授業で商品化された商品の販売の継続や独自の商品開発を行います。



## 「じぇじぇじぇ」に続け！ 料理本やラジオ体操でも方言がトレンド！ 2013年10月24日

### 年配者の方言から若者の新しい方言までを網羅した「ぐんま方言かるた」

日本の伝統的な遊びである「かるた」。その親しみやすさから「歌かるた」「いろはかるた」などさまざまな種類があるが、その中でも方言を使用した「方言かるた」は全国に90種類ほど存在するという。

「郷土かるた」としては、群馬県の出来事、人、郷土愛を詠う『上毛かるた』が有名だが、その一方で全国共通語に近い群馬言語は、方言として意識されづらく、群馬の「方言かるた」は存在しなかった。

2012年12月。地域文化、地域教育への貢献を学ぶゼミの一環として、共愛学園前橋国際大学の学生たちが「ぐんま方言かるた」を作成。販売を開始した。

初版の3000個は、2~3カ月で完売。第2版の3000個も、そろそろ完売間近。現在、第3版を計画中だという。わずか1年弱で6000個の販売数をあげた理由としては、群馬県では元々「上毛かるた」が地域文化として親しまれていたこと。そして「ぐんま方言かるた」の中で、年配者が使用する方言から若者が使用する比較的新しい方言まで網羅したことも大きい。

県内の伊勢崎市、前橋市の小学校、また大間々町の高齢者教室などで利用されているほか、県外の群馬県出身者からも問い合わせが多いという。



取り札には、素朴で温かな県民性と方言の響きによく合う「切り絵」を採用



若い世代へ方言を伝えていきたい、という教授、学生の思いから制作された「ぐんま方言かるた」



共愛学園前橋国際大学の学生とエフエム群馬アナウンサー(写真左から)大崎 修さん、坐間 妙子さん、羽島 武夫さん



# 地域共生の取組

## 地域共生研究センターの開設

### 連携協定等

- 筑井小学校と共愛学園前橋国際大学の地域連携協議会に関する覚書(2007年)
- 前橋市教育委員会と共愛学園前橋国際大学の教育研究に関する協定(2008年)
- 伊勢崎教育委員会と共愛学園前橋国際大学との伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する覚書(2008年)
- ぐんま地域・大学連携協議会(2009年)
- 一般財団法人サンデン環境みらい財団と共愛学園前橋国際大学との連携・協力に関する基本協定書(2009年)
- 有坂中央学園中央情報経理専門学校と共愛学園前橋国際大学との教育研究連携・交流に関する覚書(2009年)
- 前橋工科大学と共愛学園前橋国際大学との大学教育研究連携に関する協定(2012年)
- コンソーシアム「グローバル人材育成推進協議会」(2013年)
- 前橋市と共愛学園前橋国際大学の包括連携協定(2013年・前橋市としては初の大学との連携)
- 前橋商工会議所と共愛学園前橋国際大学との「地域人材育成及び地域文化発展のための連携に関する協定書」(2015年)
- 前橋市富士見商工会と共愛学園前橋国際大学との連携協力に関する協定書(2015年)

### 公開講座・地域の方々の受け入れ・施設の開放等

- 公開講座の開講
- 厚生労働省・群馬県委託「離職者のための委託訓練講座」の開設
- 文科省認定免許法公開講座の開設
- 文科省委託免許状更新講習試行プログラム(予備講習)の開設
- 免許状更新講習の開講
- 各種生涯学習講座の開講
- 「きょうあい子育て広場」の開講
- 社会人特別入試・授業料減免・科目履修制度
- KYOAI COMMONS/図書館の開放・施設の貸し出し